

和光市古民家愛好会

所在地 〒351-0111 埼玉県和光市新倉 2-33

TEL/FAX 048-467-7575

E-mail minnkaen@nifty.com

URL <http://homepage2.nifty.com/niikura-minnkaen/>

会長 井上 明次

会員数 53名

年会費 1,000円

【古民家(図1)の概要と会の沿革】

旧富岡家住宅は、昭和63(1988)年7月、東京外環自動車道路建設にともない解体されました。同年9月には富岡氏から和光市へ解体部材一式が寄贈され、その後の調査により、旧富岡家住宅の創建時期は17世紀後期(江戸中期)であったことが推定されています。部材のなかには創建時につけられたと思われる蛤刃の手斧痕もみられます(図2)。

解体から18年後の平成18(2006)年3月に、和光市教育委員会により部材が組み立てられ、「新倉ふるさと民家園」に生まれ変わりました。旧富岡家住宅の復元をうけて、和光市教育委員会主催の文化財サポーター養成講座の受講者を主体に80名の市民が集まり、「古民家サポーター」として発足、その後「和光市古民家愛好会」と改称しました。現在、和光市の委託をうけて、和光市指定文化財(建造物)「旧富岡家住宅」の管理および事業の企画運営にあっています。



図1 新倉ふるさと民家園(復元された旧富岡家住宅)



図3 燻蒸のための囲炉裏 珍しく土間環境につくられている

【活動内容】

●古民家の管理

会員53名のうち、十数名でシフトを組み、毎日3人ほどで古民家の管理・運営をしています。「木造茅葺寄棟屋根平屋建て」という構造をもつ古民家は、特に屋根に害虫が発生しやすいため、囲炉裏で薪を焚いて燻蒸をする必要があります。当初は市より燻蒸は2日に1回行うよう通達されていましたが、どうしても虫が発生してしまうため、毎日行うようになりました(図3)。また、現代の住宅とは違って気密性が低く、土埃が壁の隙間からどんどんはいつてくるため掃除をするのはたいへんな作業です。

庭では稲を育てたり、さまざまな草花を植えています。なかでも、NPO法人和光・緑と湧き水の会の厚意によりいただいた絶滅危惧種のヒロハアマナ(図4)は、老人ホームからの来園者にご好評です。

●イベントの開催、市との協働

本会の会員53名のなかにはさまざまな趣味や特技をもつ会員がいます。彼らの特技を活かして、草履づくりや手打ちうどん教室、子どもお話し会、こわい話、紙芝居、古民家園で栽培したお米の試食会、ひな人形の展示など、各種のイベントを開催しています(図5~6)。

これらのイベントの開催にあたっては、毎月、

和光市教育委員会生涯学習課と行っている古民家管理運営連絡調整会議において、本会が企画を提出し、市の担当者と積極的に意見交換をしています。また、市の広報誌にイベント情報を掲載していただき、参加者の募集にご協力いただいています。

会員の力だけでは行えないイベントを企画するときには、他団体に協力をお願いしています。たとえば津軽三味線の演奏会、白子ばやし教室(図7)、箏演奏会などです。また、「学びあい、支えあい地域活性化推進事業和光実行委員会(通称:コラボ和光)」と連携しながら、農業体験や草履づくりなどの出前授業も行っています。

【今後の課題】

子どもから大人まで多くの市民が300年前の雰囲気を感じながら楽しく集う古民家になるように努力します。また、まちづくりの拠点の一つとして、諸々の市民団体やサークルとの交流をさらに積極的に進めていきます。近い将来、『全国古民家サミット』の開催を目指して近隣の古民家関係者との情報交換や連絡をとりあっていききたいものです。



図2 蛤刃の手斧痕 300年以上前の創建時につけられたと推定されている



図4 ヒロハアマナ このほか古民家園では半夏生のサルズベリなど四季折々の草花が楽しめる



図5 草履づくり 指導者は本会会員の佐藤氏



図6 ひな人形の展示



図7 和光市の伝統芸能「白子ばやし」